
閻魔の娘

瑠芽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

閻魔の娘

【Nコード】

N4195BA

【作者名】

瑠芽

【あらすじ】

地獄の王、閻魔王の娘瑠芽。人間界には一日で多いときは20もの地獄からの逃亡者がいる。それを討伐するために現世に派遣された瑠芽とその仲間たち。これからどんな敵と戦っていくのか・

巻女・・・1(前書き)

おはようございます。こんにちは。こんばんは。お久しぶりです。
今回は短編だったあれを長編に・・・まあだから更新していくの
で気長に待っててください

巻女・・・1

#####

巻物盗んだ女子いて

親方様が起こってる

追手が追いかけて見つけるが

女はうゝみに飛び込んだ

死体は上がるがまきものは

いまだにいまだに見つからず

#####

人間界

私立締盟学園には毎年200人程度の人が入学してくる。

今年はその中にひととき目立つ少女がいた。

閻魔組・・・ここ最近にこちら辺を縄張りに活動をし始めた暴力団。

そこの一人娘が入学したのだ。

「え〜じゃあ自己紹介をしていきましょう」

担任がそういうと出席番号一番から自己紹介が始まった。

「1年2組1番！！閻魔瑠香えんまるかです。この町に来てまだ少ししかたつておらず

皆様に迷惑をかけると思いやすが、どうかお友達になってくださいえ

！！」

この元気な子が最初で2組の自己紹介が始まった。

〜同時刻〜

・・・地獄・・・

「ふわぁ・・・門番つてのもひまだねえ・・・」

門番がそういつていると前方から地獄車がやってきた。

「はい・・・通行許可書見せて」

と聞いた門番に対して返事はなく

「ちよつと・・・聞いているの？」

「魔印1式・・・致死爆^{マルチ}」

「え・・・？・・・ぐはぁ・・・」

そこは一瞬で血の海と化した。門番は力を振り絞って警告の鐘を押した。

その時には地獄車は現世への門へと向かっていた。

「緊急警告、緊急警告・・・何者かが地獄門を突破し

冥界の門を使い現在現世へ移動しています」

その知らせを聞いた地獄の王、閻魔大王は

「なんだと・・・最近の門番はやくにたたんのう・・・」

「閻魔大王様、そんなことを言っている場合は・・・」

使いの者によりますと巻女^{ロールレディ}がいなくなっている模様です」

「そかそか・・・つてええええええ！？巻女だつて。それは・・・だれじゃ？」

その言葉によりその場にいたほとんどが心の中で

(新しい職探そう・・・)

と思った。

「閻魔大王様、巻女は明治2年屋敷の巻物、「魔封の書」をもって海に飛び込み自殺した女性です。」

「そかそか・・・じゃあ現世の娘に連絡して討伐させといて」

(・・・やる気ねええええ)

「かしこまりました。ですが娘様は

本日入学式ですので後での連絡でもよろしいですか？」

「ああ・・・たのんだ〜」

(・・・やっぱり新しい職探そう・・・)

人間界

「閻魔さんは閻魔組の若頭「閻魔さんって何か好きなものは？」なの？」

閻魔瑠香は質問攻めにあっていた。

机の周りには大勢のクラスメイト、他クラスからも来ておりすごいことになっていた。

「愚民どもおどき〜！」

その声を張ったのは

「お嬢様、もう少しおしとやかに・・・」

「うるさいわ芽衣奈・・・で・・・瑠香さんでしたわよね？」

「ええ・・・はい・・・あの・・・どちら様で？」

「ふふふ・・・まあこの町に来て間もないのでしたわね、芽衣奈教えて差し上げなさい。」

(・・・自分で言えよ〜！)

「はっ、お嬢様。このお方はこの町に江戸時代から続いている大地主の娘、帝学院真樹様よ」

なぜだか知らないが教室から拍手が巻き起こる。

「ありがとう」

そういつて帝学院麻紀は拍手を止めた。

「で・・・そんなお偉いさんがうちに何用で？」

「あなたの組はうちの管轄に侵害してきそうなので

それはやめてほしいとお父様にいつてもらっても？」

「ああ・・・はい・・・父にですか・・・」

「あら・・・今の組長はお父様では？」

「ん〜そうなんだろうけど・・・まあいつときます」

そう曖昧な返事をする

「まあよろしくて・・・またお会いしましょ」

そういつて帝学院麻紀は去って行った。

「ふう……めんどくさいなあ……」

その頃、閻魔組本家

……ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

「へい……閻魔組……あ……天邪鬼……え？ああ……

・
巻女がこっちに来てるって？了解了解。瑠香様が帰ってきたらいつとくよ。」

……

「……私を死に追いやったあの男は……どこおおおおお
お」

巻女・・・2(前書き)

現世に逃亡した巻女。不吉な巻物とともに元つかえていた領主を探すがこの世にはもういない・・・

入学式なので早く学校が終わった瑠香は、
できたばかりの友達の中条明菜と一緒に帰っていた。

「ところでさ、さっき聞きそびれちゃったんだけど
瑠香ってなんか趣味とかあるの？」

「私はねえ・・・映画とか見るのが好きかな。

あ・・・料理するのも好きだよ」

「本当に！！私も映画好きなんだ〜しかもホラー」

「あ・・・私もホラー大好き」

「今度一緒に見に行こうね」

などという、たわいもない話を続けて家に向かっていった。

途中の分かれ道で明菜と別れた瑠香は家、閻魔組についた。

「たっただいま」

「おかえりなせえ瑠香お嬢様。

あ・・・荷物を置いて着替えたら赤鬼のところに行ってくださいえ」

「ん？なんかようかな？まあわかったよ〜ありがとね」

そう言っ瑠香は自分の部屋に向かった。

同時刻

若い男が町を歩いていると

「っ・・・いつてえな・・・どこ見て歩いてんだ！！」

「・・・」

肩がぶつかった女性は何も言わずにその場を去ろうとした。

「おい・・・ぶつかったのにあやまりもしねえのか！！」

そういつて男が女の手首をつかむと

「・・・やめてください・・・」

「お・・・なんだ、案外かわいじやねえか。
まあ許してやつからこの後、俺とどこかいかねえ？」
「・・・ごめんなさい・・・急いでるんで・・・」
そういつて女は走り去ろうとしたが
「まてよまてよ〜つれねえなあ〜え？なに？彼氏とかいちゃう系？」
しつこくせまつてくる男に対して女は袖から巻物を取り出し
「魔印2式・・・細胞死ゲルニカ・・・」
「え・・・なんだって？」
女はそのまま男を振り切つて逃げた・・・男の腕ごと・・・
「ぐわああああああ・・・腕が・・・腕がああああああ」
人通りの少ない場所だったので男の死体が見つかったのは翌日のこ
とだった。

閻魔組

「赤鬼〜なんか用？」
そういつて瑠香は着替えを済ませて赤鬼の部屋に来ていた。
「あ・・・お嬢様。先ほど連絡があつたのですが
巻女が地獄を抜け出した模様で・・・」
「またか・・・もおおお、私が来てから脱走事件何回目よ！！
最近地獄の管理がたつるんでんじゃないの！？」
私が門番と一緒に遊んでた時はほとんど門で倒してたじゃない」
「それはお嬢様が強すぎなんですって・・・
あとは閻魔大王様の放任主義のせいですかね・・・」
「あの、糞親父め・・・
まあいいわ、なんか情報はあるの？」
「天邪鬼によると、自分を殺した領主を探してるだとか。」
「はあ？・・・そんなのづくに死んでるじゃないの？」
「そうなんです、後継ぎとついか、その子孫がこの町にいますか
んとか。」
(この町に後継ぎ？たしかさつき学校で金持ちがなんかそんなこと

を・・・)

「わかったわ。なんか情報があったらすぐ私に頂戴」

「かしこまりました。では・・・化鴉!!」

赤鬼がそう呼ぶと

「なんでしようか」

「巻女の情報を集めてき「なんかわかったらすぐ私に報告しなさい」

」

「かしこまりました」

そういつて化鴉は外に出て行つた。

「お嬢様なんであんなことを」

「あんた通したら色々とうるさいじゃない。

準備万端ですか？お腹すいてないですか？喉は乾いてないですか？

つて」

「それはお嬢様の安全を思って」

「ああ〜はいはい。ありがとね。でも私はもう子供じゃないんだか

ら」

そういつて瑠香は部屋を出て行つた。

「どうして閻魔の血はあぁなんでしょう・・・」

部屋からはそんな愚痴が漏れていた。

翌日

テレビでは男の死体が発見されたというニュースをやっていた。

体中の細胞が死んでいて、右手がもげているという変死体らしい。

新しいウイルスかとも騒がれていた。

「ん〜物騒な事件ねえ・・・」

麻紀がそうつぶやくと

「お嬢様、本日はこれが原因で学校は休みだそうで」

「あら、そうなの。では本日は久しぶりに家でだらだらしようじゃないの」

「

お嬢様、毎回それじゃないですか。体を動かさないとお腹に脂肪

「が・・・」

「しるぞいわねえ・・・わかったわよ・・・運動もするわ・・・」

「ミ・・・ッ・・・ケ・・・タ・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4195ba/>

閻魔の娘

2012年1月12日02時00分発行